

令和8年度

品川区立伊藤小学校の教育

～輝く子ども 輝く教職員 輝く伊藤小学校～

校長 西川 幸延

1 めざす学校の姿

90年の歴史と伝統を引き継ぎ、「輝く子ども、輝く教職員、輝く伊藤小学校」をめざし、保護者・地域と一体になって、心豊かな子どもを育成していく学校

品川区教育振興基本計画及び品川区立学校教育要領の趣旨に基づき、心身ともに健康で知性と感性に富み、人間性豊かに成長し、希望に満ち自らの未来を切り開いていく子どもを育成します。そのためには、子どもにとって「楽しい明日が待たれる学校」に、保護者にとって「子どもを通わせたい信頼できる学校」に、地域住民にとって「誇りのもてる自分たちの町の学校」に、教職員にとって「職務に対してやりがいのある学校」にすることが求められます。

すべての教職員の創造性、自発性、専門性を最大限に生かし、学校・保護者・地域が一体となって、「輝く子ども、輝く教職員、輝く伊藤小学校」をめざします。

(1) 輝く子ども

- ・ 本校の子どもが、「友達大好き、先生大好き、学校大好き」と感じている。
- ・ 本校の子どもが、自分を大切にし、友達を大切にしている。
- ・ 本校の子どもが、自分のよさに気づき、そのよさを発揮している。
- ・ 本校の子どもが、伊藤小学校で学んでいることを誇りに思っている。

(2) 輝く教職員

- ・ すべての教職員が、子どもに愛情を注ぎ、その成長に喜びを感じている。
- ・ すべての教職員が、どんな課題でも一丸となって解決のために立ち向かう。
- ・ すべての教職員が、教育者のプロとしての自覚をもち、自分の力と個性を発揮しながら「楽しい授業」「分かる授業」を行うとともに、授業力の向上に向けた研究・研修をする。
- ・ すべての教職員が、伊藤小学校に勤務していることを誇りに思っている。

(3) 輝く伊藤小学校

- ・ 本校の子ども「健康」「安全」を第一に考え、安心して通わせることのできる学校。
- ・ 本校の子どもや保護者、地域の方々から愛され、信頼できる学校。
- ・ 本校の子どもに、基礎的・基本的な学力や基本的な生活習慣を確実に身に付けさせ、学校や社会のルールを守って行動することができる学校。
- ・ 地域の方々から伝統ある伊藤小学校に心から愛着をもち、子どもたちを温かく見守ってくれる地域に密着した学校。

2 教育目標

開校90年の歴史と伝統に誇りをもち、生涯にわたって心豊かにたくましく生きる人間の育成を目指します。人権尊重の精神のもと、知・徳・体の調和のとれた児童を育成するため、以下のように設定します。

- ・ よく考える子
→ 自分の考えをもち、獲得した知識やスキルを積極的に活用したり判断したりする。
- ・ 人を思いやる子
→ 自分の命の大切さを知り、友達存在を認め、互いに高めようとする。
- ・ 健康で粘り強い子
→ 心身の健全な成長をめざし、自分のめあてに対して粘り強く努力する。

さらに、「令和7年度 しながわウェルビーイング教育特別推進校」「令和8年度 しながわウェルビーイング教育推進校」の指定を受け、

- ・ 個人と社会のウェルビーイングを実現するための子どもの資質・能力の育成

を教育目標の一つにします。

3 めざす児童像

教育目標を受けめざす児童像は、

- 知識やスキル、態度および価値観を身に付ける児童
- 自ら目標を決めて学び、責任をもって行動する力を発揮する児童
- 自分の個性を輝かせながら集団や社会に貢献できる児童

とし、めざす児童像を実現できるようにします。

4 学校の基本姿勢

- ・ 「健康・安全を最優先に」の精神で、子どもの命や健康を守る教育をめざす。
- ・ かけがえのない我が子を思う親の気持ちになって、最善の努力をする。
- ・ 伊藤小学校のすべての子どもたちを、すべての教職員で育てていく。

○ 「健康・安全を最優先に」の精神で、子どもの命や健康を守る教育をめざす。

子どもが心も体も健康な状態であり、日々を安全に過ごすことは、教育活動を行う上で、必要不可欠なことです。いじめ問題をはじめとする生活指導上の課題への対応や、休み時間の怪我等の事故が起こらない体制づくりなど、常に子どもの様子を確認したり、学校の施設等の管理に細心の注意を図ったりしながら、子どもの命や健康を守る教育をめざしていきます

○ かけがえのない我が子を思う親の気持ちになって、最善の努力をする。

子どもたち一人一人は、それぞれの御家庭にとってかけがえのない大切な我が子です。子どもが楽しそうに学校へ行けば安心であり、不安に思っている様子があれば、学校で困ったことがあったのではないかと、友達との関係がうまくいかないのではないかと心配するのが当然です。本校の教職員は、子どもたち一人一人の様子を常に把握し、いつでも、かけがえのない我が子を思う親の気持ちになって最善の努力をしています。

○ 伊藤小学校のすべての子ども達を、すべての教職員で育てていく。

子どもたちは、学校生活の中で、自己を高める取り組みを自らすすんで行っています。そのような姿を、全教職員で認めたり褒めたりすることが、子どもたちが前向きに取り組むための意欲の向上につながります。また、生活指導上の課題についても、担任一人に任せるのではなく、学校全体で共有し組織で対応することが必要です。このような姿勢で、伊藤小学校のすべての子どもたちを伊藤小学校のすべての教職員が一丸となって育てていきます。

4 教職員の基本姿勢

- ・ 伊藤小学校のすべての子どもたちを、すべての教職員で育てていく。
- ・ 教育者のプロとしての確かな自覚をもち、子どもとの信頼関係を築き指導する。
- ・ 全教育活動において、実施直後に評価し、子どもにとってプラスになる改善を迅速に行う。
- ・ 知識及び技能を活用して課題を解決するための「思考力・判断力・表現力」を育成するために、常に授業力の向上を図るための取組を充実させる。
- ・ 一人一人の教職員が、担当職務の成果責任者として職務を遂行する。
- ・ 問題は全教職員で素早く共有する。原因を明らかにし、再発防止の方策を立て、経過を丁寧かつ的確に把握する。

人と人との「かかわり」や「つながり」が強く、一体感のある学校は、子ども達の学びや成長を支え、子どもたち一人一人を大切にしている調和があります。

本校は、次代を担う全ての子どもたちに、よりよい人生を切り開く素地を確実に育むために、教職員が一丸となり、子どもたちにとってプラスになることを常に考え、教育者のプロとしての自覚をもち、教育活動を推進してまいります。

5 学校教育目標を達成させるための具体的な方策

教育活動のすべては手段です。本来の目的は、子どもたちの健やかな成長の実現です。子どもたち同士、子どもと教職員の温かな人間関係に基づき、「質の高い学習指導」「予防的な生活指導」「教職員が一丸となった学校運営」「コミュニティスクールを基盤とした学校・保護者・地域の役割」を着実に実践して教育効果を最大限に高めます。

(1) 質の高い学習指導

① 学習規律（授業中の約束）の徹底

すべての学級で、「あいさつ」「返事」「言葉遣い」「傾聴」「学習準備」の5項目を確実にを行います。

- ・ 授業の開始時刻（チャイム着席）を守り、学習の始めと終わりにあいさつをします。
- ・ 先生に指名されたら、「はい」と返事をして発言をします。
- ・ 丁寧な言葉遣いで話します（「～です。～ます。」「～だと思えます。」）。授業以外の場でも、状況に応じた正しい言葉遣いをします。
- ・ 先生や友達の話は、よい姿勢で最後までしっかり聞きます。
- ・ 休み時間中に次の授業の準備をします。そのためにも、忘れ物をしません。

② 特別支援教育の充実

ユニバーサルデザインの視点を取り入れた教室環境や授業づくり、指導の工夫や配慮などによる支援を実施するために、特別支援教育コーディネーターを中心とした特別支援教育校内委員会で検討及び、研修の充実を図る。また、スクールカウンセラー、臨床発達心理士等、学校内外の人的資源の活用により、通常の学級での指導の工夫や配慮等による支援を実施していく。

特別支援教室での指導と通常の学級での支援や配慮を行うために、巡回指導教員と通常の授業を行う教員との間で、児童・生徒の実態や課題、指導目標等の共通理解を図り、通常の学級において指導の工夫や配慮等を行う。

③ しながわウェルビーイング教育の更なる推進

子どもたちが、将来の予測が困難で変化の激しい時代の中にあっても、自分らしく幸せな人生を送るためには、ウェルビーイングの実現に向けて自身が進む航路を自ら選択することができるように学ぶことが必要です。そのために、本校は「令和7年度 しながわウェルビーイング教育特別推進校」「令和8年度 しながわウェルビーイング教育推進校」の指定を受け、教員自身がウェルビーイングの学びの意義や位置付けに納得し、子どもたちに対して学びを实践できるようにしていきます。

④ 校内研究の充実

校内研究活動を推進し、教員の授業力と児童の学力向上を図るために、研究主題を「誰一人取り残さない算数科の授業づくり ～できる・分かる・使える算数の実現（仮）」とし、児童がウェルビーイングになる算数科の充実を図ります。

⑤ 基礎的・基本的な知識・技能の習得

繰り返しの学習を重視し、各教科の基礎的・基本的な知識・技能を習得させるようにします。特にノート指導や個別指導を通して、一人一人の学習状況を的確に把握し、個に応じた適切な指導・助言を行います。また、算数科における習熟度別学習を活用した基礎・基本の学習等、個に応じた指導の更なる充実を図ります。また、品川地域未来塾を活用した、基礎学力の向上を図る取組を学年ごとに週1回以上実施できるようにしていきます。

⑥ 思考力・表現力を育む指導法の工夫（問題発見・解決型の授業）

基礎的・基本的な知識・技能の習得によって、学んだ知識や既習事項を活用する場面を意図的に取り入れたり、互いに学び合い高め合うといった学習形態を行ったりすることで、子どもの思考力・表現力を高めていきます

⑦ 45分間の授業を大切にしている指導

日々の授業で、子どもたちが何かを学んで終わることが必要です。そのために、何を学習するのか、何を身に付けるかなどの「学習のめあて」を必ず示し、学習の流れを明確にしながら学習を進め、「学習のまとめ」で確実に振り返ります。このことで、45分間の授業が楽しかったと意欲的に学習できるようにします。

⑧ 市民科の取組

本校の子どもたちの実態を踏まえ、自分の考えを伝えたり、相手の考えを理解したりする力を培うことでコミュニケーション能力を高め、望ましい人間関係を築けるようにしています。特に、学級での話し合い活動（以下、学級会）を中心に、「計画→実践→振り返り→改善」というサイクルを重視します。

市民科一貫プランでは、富士見台中学校区のテーマ「将来に渡ってウェルビーイングな生活を高める・広げる」を受け、伊藤小学校テーマを「地域の中でウェルビーイングに生きる」として、探究的な学びを深めていきます。

⑨ 体力向上に関する取組の充実

令和7年度の体力調査を踏まえ、体力向上に関する取組を充実させていきます。そのために、体育科における授業改善やテクニカルアドバイザーを活用した授業を行ったり、品川スポーツトライアルやワンミニッツエクササイズ等を活用した取組を充実させたりします。

(2) 予防的な生活指導

① 生活に関する規律の徹底

すべての学級で、「あいさつ」「かかわり」「時間厳守」「責任」「整理整頓」の生活指導の5項目を確実にを行います。

- ・ 自分からすすんであいさつをします。
- ・ 自分の大切さとともに他の人の大切さを認めていきます。
- ・ 登校時刻や下校時刻等、時間をしっかり守ります。
- ・ 係活動や委員会活動等にすすんで取り組みます。
- ・ 身の回りを常に整理整頓し、過ごしやすい環境を維持します。

② 思いやりあふれるいじめのない学級づくり

担任と子どもとの愛情あふれる温かい関わりがもてるよう、意識的に児童のことを名字で「～さん」と呼ぶようにしていきます。また、子ども同士が思いやりのある学級のもとで、授業規律を徹底させ、思いやりあふれるいじめのない学級づくりを行います。そのためにも、子どもの立場になって、一人一人の声を聞き、全員が納得するような指導を行い、一人一人の児童理解に努めていきます。その中で、子どもたち同士の温かなかかわりができるようにします。

③ 「伊藤小学校のきまり」に基づいた指導

「伊藤小学校のきまり」に基づき、子どもたちへ本校の生活指導等のきまりを意識させ、守るように指導の徹底を図ります。全校朝会でも週番が「伊藤小学校のきまり」に書いてある内容を踏まえた週目標を設定するようにします。担任は、常に「伊藤小学校のきまり」を意識しながら指導します。

また、教職員用「伊藤小学校 共通指導事項・配慮事項」で全教職員が共通した指導を行います。

④ あいさつの重視

生活指導の5項目「自分からすすんであいさつをします。」を踏まえ、教員が率先して子どもたちに挨拶をするようにします。また、委員会活動でも「あいさつ運動」に関する取組を行っていきます。

⑤ 整理整頓された学習しやすい教室環境

教室がきれいで清潔感があり、整理整頓された環境の中で、子どもたちは落ち着いて学習ができます。常に整理整頓された教室環境を心掛け、教室掲示等も子どもたちにとって見やすい分かりやすいものにします。また、子どもにも、掃除や日々のゴミ拾い、整理整頓の徹底を行うようにします。

⑥ 学校いじめ防止基本方針に基づいた対応

いじめは重大な人権侵害であり、決して許されるものではありません。今年度改訂した、「学校いじめ防止基本方針」に基づき、いじめの防止、いじめの早期発見、早期対応を行い、本校の子どもたちが、安心して学校生活を送り、様々な活動に取り組むことができるよう、学校の内外を問わず、いじめがなくなるよう取り組んでいきます。

(3) 教職員が一丸となった学校運営

① 危機意識をもった学校体制での課題解決

危機意識や安全意識を常にもち、「報告・連絡・相談」を行い、様々な課題に関して全校体制で解決に当たります。また、子どもたちが安全で過ごせるように、本校の子どもたちの実態に対応した危機管理・安全管理を日々徹底し、子どもには、決められたルールを確実に守らせたり、教職員は決められた役割を確実に行ったりしていきます。

② 保護者が相談しやすい環境づくり

「かけがえのない我が子を思う親の気持ちになって、最善の努力をする」という本校の基本姿勢で保護者に接するよう努めます。また、日頃から保護者と「会話」する機会を増やし、人間関係を深めるようにして、保護者が相談しやすい環境をつくるようにします。

③ 服務事故防止と服務の厳正

体罰、セクハラ、交通事故、個人情報紛失、会計事故等の服務事故について正しい理解をし、教育公務員としての信用を失墜することなく服務の厳正に努めます。

④ 校区教育協働委員会による学校評価

「伊藤小学校の教育」を基に、校区教育協働委員会で多くの議論を行う中で、課題を明確にして改善していきます。校内の自己評価による改善も進め、子どもにとってプラスになることを常に考えていきます。

(4) 品川コミュニティスクールを基盤とした学校・保護者・地域の役割

① 品川コミュニティスクールの設置

学校の教育活動について、基本的な方針を学校とともに考える「校区教育協働委員会」と教育活動の支援の実働となる「学校地域支援本部」を設置し、地域と学校が協力して子どもたちの教育を進めます。また、学校地域コーディネーターとアシスタントコーディネーターの連携を充実させ、地域と学校が協力して子どもたちの教育を進めます。特に、「学校地域支援本部」によるボランティア活動の充実が図られるように取り組んでいきます。

《校区教育協働委員会》

〈役割〉

- ・ 学校運営の基本方針を承認する。
- ・ 教育活動を評価する。
- ・ 区費教職員の配置等について意見を述べることができる。

〈委員〉

- ・ 学校地域支援コーディネーター
→ 教育活動を通して学校と地域をつなぐ役割
- ・ 保護者代表（PTA会長） ・ 地域住民（町会代表）
- ・ 学識経験者 ・ 関係機関職員 ・ 卒業生等

《学校地域支援本部》

〈役割〉

- ・ 学校が必要とする教育活動などについての支援を行う。

〈メンバー〉

- ・ 地域ボランティア ・ 保護者等

② 校区教育協働委員会

年間6回開催し、様々な教育課題について熟議を重ねています。昨年度は、「しながわウェルビーイング教育特別推進校」として、校区教育協働委員会で考えるウェルビーイング、地域が考えるに関するウェルビーイング、子どもにとってのウェルビーイングの3点を柱にして話し合いをすすめました。

③ いたう CS ボランティア

「学校地域支援本部」である「いとうCSボランティア」では、年間を通じて、保護者や地域の方々へボランティアを募り、図書ボランティアや教科に関するボランティア等、子どもたちがよりよく学校生活を送れるような取組を行います。

④ 地域教育力の活用

地域の人材や商店街・地域センター等、地域の組織や機関を教材として学習を開発し、地域・保護者が参加・参画する取組を実施していきます。また、学校周辺の特徴ある環境を生かした学校独自の地域に根ざした学習を展開します。